

# あいサポーター研修 実施・参加報告書

報告者 幼稚園特別支援委員長 世古 丈人

開催日程：令和5年7月24日（月）10時00分～12時

開催場所：和歌山大学教育学部附属中学校

開催事業：あいサポーター研修

参加者：講師 竹川 裕之（元全附P連理事）

受講者 和歌山大学教育学部附属中学校生徒 61名 教職員 山口康平 黒柳友花

## 開催理由・背景

障がいへの理解・啓発を目的とする「あいサポート運動」に関心を寄せていただいた「和歌山大学教育学部附属中学校育友会（PTA）」の依頼により実施しました。

和歌山大学教育学部附属中学校の生徒会福祉委員会が主催で企画・運営され、生徒及び教職員に参加を募った。今回は、生徒会が和歌山県と連携することによって、和歌山県福祉保健部福祉保健政策局障害福祉課が主たる実施者となった。そのため、元全附P連理事が講師となることによって、自治体とのタイアップとしてサポートする形態をとった。

## 当日の様子

通常のあいサポーター研修と異なり、学生用の研修として、50分の2コマの構成で、講演＋動画視聴＋車椅子等の実習という形でのスタイルで実施された。

実習は、簡単な手話講座と2班に分かれて、車いす体験と軍手での折り紙と文字を書く実習の4つの体験で構成された。

体験実習後は、生徒の皆さんで意見発表する時間もあり、車いす体験では操作方法だけでなく乗る体験もしたため「少しの段差でも怖かったので操作の仕方も慎重にした」や、軍手での折り紙や文字書きでは、単に折りづらかったや書きにくかっただけでなく、障がいだけでなく高齢になった場合の感想や、さらに目が悪くなるともっとやりづらくなるかも、など、単なる体験だけでなく想像力を働かした活発な意見交換が行われていた。



## 所感

「赤ちゃんが泣くことは知っているから、急に泣き出しても驚かないよね？」から始まった、まずは「知ること」の大切さの講義には、生徒の皆さんが真剣に受講しているのが印象的でした。様々な障がいの特性や障がいのあるかたへの必要な配慮を正しく理解することが、障がいのあるかたも、ないかたも一緒に暮らすことのできる、あたたかい地域社会を築く、第一歩となることを講義と実習を通じて体現している素晴らしい研修となりました。また、今回は県主催のあいサポート研修になりましたので、研修人数を和歌山県のカウントをすることとなりましたが、全附P連が自治体と連携して、自治体主催の研修をサポートする役割で全国の自治体がよりあいサポート研修を取り入れる一助となれば素晴らしいことではないかと思いました。ちなみに現在あいサポート運動を実施している自治体は、まだ9県16市6町しかありません。

